
最初で最後の仕事人

蒼鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最初で最後の仕事人

【Nコード】

N1338H

【作者名】

蒼鬼

【あらすじ】

雪蓮が暗殺され一刀はその怨みを晴らすべく最初で最後の仕事へ向かう。

(前書き)

恋姫無双版必殺仕事人です。

雪蓮が死んだ。

蓮華、小蓮、冥林、多くの家臣が涙を流す。祭さんは涙を流していないがその顔か悲しみに暮れている。

俺もなんとも言えない感情が心を締め付ける。

「雪蓮お姉さま……………」

「蓮華、冥林、小蓮後で話がある、城壁でまっている」

それから半刻たって三人がやって来た。

「何？一刀」

「蓮華、冥林、小蓮正直に答えてくれ……………雪蓮を殺した奴等が憎いか？」

三人はそれぞれ頷く。

「噂で耳にしたんだけさ、町外れのお地藏様の場所で晴らせぬ恨みを晴らす仕事人が居るらしい金さえ払えば……………」

「……………」

「俺言いたいののは憎しみに飲み込まれるなと言う事だよ。じゃ、それだけだから」

「……………夜になりお地蔵様の前に人影が蓮華達だ。」

俺はそれを木陰から見る。

「……………恨みを晴らして!!」

小蓮の涙声が辺りに響く。

「……………怨み聞き届けたり……………」

何処からともなく声が聞こえる。

その声を聞くと三人は帰って行った。

俺は木陰から出ると其処には3人の仕事人がいた。

「やっぱり俺も手伝わせて下さい!」

「いいのか?殺したらテメエの地獄行きだぜ」

「それでも構わない、アイツ等だけは許さねえ!!」

男は金を投げる。

「受け取れ、ちんけな金だが恨みが募ってる」

俺はそれを拾う。

「さあ、仕事やで」

もう一人の関西弁の男が言う。

俺は城に帰り黒い服に着替え雪蓮から貰った日本刀を手にする。

「仇とつてやるからな………雪蓮。」

もう一人は羽扇屋で鉄扇を研いでいる。

二人目は生糸屋で生糸を練って強度を強くしている。

三人目は大工で大工道具の錐を研いでいる。

――――

雪蓮を殺した奴等は今日は小屋に居るらしい全員で4人だ。覚えて
いる。

小屋にしては何部屋のあり、一人ずつ始末するにはもってこいの場
所だ。

俺達は草むらに隠れている大工は屋根に上り、屋根裏に忍び込んだ。

大工は一人酒を飲んでいる男の背後に音も立てず忍びよると一気に
屋根裏から降り、相手の口を塞ぐ、そして殺しの相手の頸動脈に錐
を刺した。

すると、男は暫くすると動かなくなり倒れた。大工は元来た屋根裏
から出て行った。

次は生糸屋だ男が部屋から出てくると後を付け、トイレから出てきた男に生糸を巻きつける。

そして、生糸を引っ張り最期は綾取りみたいに糸をクロスさせ最期は糸を鳴らすと男は動かなくなった。

そして、羽扇屋だ。的の残り二人のうち一人が妖しく思い外にでる。後を付ける羽扇屋

「よお、いい酒飲んだろ？」

声を掛け後ろを振り返る男。しかし、男の腹はすでに研ぎ澄まされた鉄扇で刺されていた。

「地獄の閻魔様が良い酒風呂（血の池地獄）を用意して待ってるぜ」

凜とした声で男に言うが男からは何も反応が無かった。

残るのは指揮官だけだ。

「これで昇進間違いなしだ」

「それは……よかったな」

「だっ誰だ!？」

俺はそう言われて姿を現す。

「お、お前孫策と一緒に居た奴だな!」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

俺は今相手に向けて今までに出した事の無い殺気をだしている。自分でも分かる位だ。

「金か？待て、有り金なら全部出すだらかな？助けてくれ！」

俺は男に向かって金を投げる

「地獄への通行料金だ受け取れあの世で後悔しやがれ」

相手は剣を抜き斬りかかって来たが刀を抜き弾きその勢いで一刀両断する。

仇相手の血が部屋中に飛び散る。

俺は刀に付着した血を払うと刀を収め小屋を後にした。

翌日、俺達が殺した奴等の遺体が旅人に発見された。

呉の将や兵が目にして思考の末仲間割れと言う事で事件は片付く。

俺は雪蓮の眠る場所に行き目を閉じる。

「悪いな雪蓮、死んでも君の所には行けなくなつたよ。・・・・・・・・もし閻魔様が気まぐれで来世をくれたのならまた会おう」

別の話だがあの魏の兵達は雪蓮の他に冥林も暗殺しようとしていた

のだった。

そう、俺は仕事人になった。この重みは一生消えないだが、これ以降仕事はしないだろうた

（ありがとう・・・一刀）

雪蓮の声したように聞こえて振り返るが其処には誰も居ない。

俺はふと空を見上げた。其処には白い雲を青く澄んだ空だった。まるで雪蓮の笑顔のように俺は思えた。

くおまけく（パロディー編）

ー魏編別れの日の夕方ー

俺は華琳の夢を果たしたと言う事はもう此処には居られないと言う事だろう。

今まで嫌になった事も楽しかった事もあったが今思う事は一つ

・・・もう少しだけこの世界で生きてみたくなつたと言う事だ。

（元ネタ L CANGETH
E WORLD）

其の式

グレンラガン風の呉

「雪蓮お姉様は死んだ、もう居ない！だけど目に見えずとも私達一人一人の心の中で生き続けける！
私は孫仲謀 小霸王を継ぎし者だ！！」

（ってキャラ崩壊してるし！）

(後書き)

仕事をコラボさせる事は一月から考えていました。連載作品でも主人公が仕事人の家系と言う設定です。連載も気が向いたら書こうと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1338h/>

最初で最後の仕事人

2010年10月8日21時49分発行